

第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 (ホール審査) 総評 ショパニスト S 部門

●審査員 A

アマチュアとは思えないほどの技術的にも確実で、表現力豊かな演奏が多かったと思います。曲の難易度に関係なく年齢を重ねただけあって、充実した音で語られており感心しました。今後も音楽を愛して続けて頂きたいものです。

●審査員 B

先ずは、参加者皆さんの興味深い解釈に感謝いたします。純粋に芸術の愛好家としてショパンの音楽と向き合っているという事実は、あなたの感受性の高さや芸術との触れ合いのニーズを示しており、とても美しく重要なことだと思います。感じたままに演奏をし、それがあつべき姿だと思つるので、演奏に関して多く申し上げることはありません。ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの「間違つた音を弾くことは些細なことだが、情熱のない演奏は許されない」という言葉を忘れずに、多くの作品を学び、音楽に関する興味深い本を読んでください。最近のものでは、ショパンの弟子フリーデリケ・ミュラーからの手紙がおすすめです。この本はミュラーがショパンから受けた 200 回以上のレッスンのひとつひとつについて詳細に記されており、教師としてのショパンについての情報を得ることができる魅力的な読み物です。

最後にひとつだけアドバイスを…次のコンクールではプログラムを熟考してください。特に練習時間が限られている場合には、必ずしも大曲を弾く必要はありません。夜想曲や前奏曲を美しく弾くことで、審査員や観客を喜ばせたり魅了することもできるのでしょつう。がんばってください！

●審査員 C

アジア大会の皆さんの演奏、それぞれ個性があり長年継続されてきた重みもあいまつて素晴らしいでした。テクニツク的には所々厳しいかなと思われる所もありましたが、ピアノに対する深い愛情を真摯に向きあう姿勢に感銘を受けました。是非これからもチャレンジし続けて頂きたいです。

●審査員 D

皆さんの大半が普段の仕事で忙しい中、大変よく準備されていて感心しました！

この部門はショパンの作品が課題曲ですが、ここで忘れてはいけないことは、ショパンは「オペラ」的な作曲家だつたということです。オペラに憧れ、それを鍵盤に置き換えたのです。つまり旋律は常に「歌う」ように、dolce cantabile であればあるほどよいです。そして何よりもバランスを大切にしてください。しばしば左手が前面に出過ぎていました。

●審査員 E

朝から大人のショパン愛を沢山聴かせて頂きました。色々な立場の方がいるとわかっていながらもテクニク的な問題や年齢のことを日々の中での忙しさなどもふまえて想像しながら感心して聴き入りました。

ショパニスト S はやはり、どれだけショパンを弾きたいか、そしてこのステージに立つことへの喜びを感じているのかなと思いました。

選曲も無理のないものを選んでの方が多かったように思います。大人の部門は少し背伸び気味になりますが、テクニク的な崩壊はあまりみられず、安心して聴かせて頂きました。継続は力なりをモットーにして欲しいです。

●審査員 F

全体としてさすがにアジア大会にふさわしい演奏内容が多くありました。経験豊かな人達の参加する部門ですので、よく理解された表現でした。選曲は適正と思われます。更に豊かな響きと指の能力を高めて下さい。